

## 再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：建設部建設課  
担当課長名：金子晶也

|   |  |  |  |             |                   |
|---|--|--|--|-------------|-------------------|
| 事業名   | 中央自動車道西宮線 神坂スマートインターチェンジ                               | 事業区分   | スマート IC  | 事象主体        | 中津川市<br>NEXCO 中日本 |
| 連結位置  | 連結位置：岐阜県中津川市神坂 地内<br>連結施設：（上り線）市道神坂44号<br>（下り線）市道神坂44号 |  |  | 延長          | 1.09 km           |
| <b>事業概要</b><br>神坂パーキングエリアは、中央自動車道西宮線の園原IC～中津川IC間に位置する休憩施設である。神坂スマートインターチェンジは、SA・PA接続型のスマートインターチェンジであり、観光交流や高速道路アクセス向上、災害時に有効に機能するネットワークの確保を目的として整備するものである。  |  |  |  |             |                   |
| 平成29年度事業化   |  | —  |  | 平成30年度用地着手  |                   |
| 令和元年度工事着手   |  | —  |  |             |                   |
| 全体事業費   | 約17億円  | 事業進捗率  | 30%  | 供用済延長       | —km               |
| 計画交通量   | 約1,500台/日  |  |  |             |                   |
| 費用対効果分析結果   | B/C<br>（事業全体）2.8<br><br>（残事業）3.6                       | 総費用<br>（残事業）/（事業全体）<br>13/16億円<br>事業費：11/15億円<br>維持管理費：1.5/1.5億円 | 総便益<br>（事業全体）=（残事業）<br>45億円<br>走行時間短縮便益：33億円<br>走行経費減少便益：9.0億円<br>交通事故減少便益：2.6億円 | 基準<br>令和2年度 |                   |
| <b>感度分析の結果</b><br>残事業についての感度分析を実施<br>（事業全体）交通量：B/C=2.5～3.0（交通量±10%）<br>事業費：B/C=2.5～3.0（事業費±10%）<br>事業期間：B/C=2.6～2.9（事業期間±1年）  |  |  |  |             |                   |
| <b>事業の効果等</b><br>① 活力：主要観光地へのアクセス性向上と周遊観光の促進<br>・中津川市を代表する観光地である「馬籠宿」へのアクセス性向上に寄与<br>・移動時間の短縮により、観光ツアー等での市内観光地への立寄率の向上に寄与<br>② 安心・安全：高速ICアクセスの改善による医療サービスの向上<br>・第3次救急医療施設である県立多治見病院や飯田市立病院への搬送時間が短縮<br>・木曾南部地域における第3次救急医療施設への60分圏域の拡大により、重症外傷者の救命率が向上<br>③ 安心・安全：災害時に有効に機能するネットワークの確保<br>・第1次緊急輸送道路である国道19号・国道256号の一部は雨量規制区間に指定<br>・神坂スマートICの整備により、集中豪雨等の際に国道19号や国道256号が規制された場合、両路線を回避する新たな代替ルートが確保できる |  |  |  |             |                   |
| <b>事業評価監視委員会の意見</b><br>事業継続について、了承された。<br><委員からの主な意見><br>・観光、物流の面での効果に期待している。<br>・救急車両の乗り降りが可能となるので期待している。  |  |  |  |             |                   |
| <b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b><br>① 濃飛横断自動車道の整備<br>・2016年までに和良・下呂間が開通しており、現在中津川工区が事業中<br>・濃飛横断自動車道の整備による広域道路網の充実化により、地域間連携を強化   |  |  |  |             |                   |

事業の進捗状況、残事業の内容等

進捗率（令和元年度事業費ベース）

- ・ 全体進捗率 30%
- ・ 用地補償進捗率 62%
- ・ 工事進捗率 10%

・ 現在、用地取得を進めながら工事に着手しており、引き続き事業を進めていく予定である。

施設の構造や工法の変更等

- ・ 下り線のランプ整備においてコントロールポイントとしていたバス停を移設することで、法面の構造変更を行いコスト削減を図った
- ・ 今後も技術革新による新工法、新材料等の情報を積極的に収集し、継続的にコスト削減に取り組む

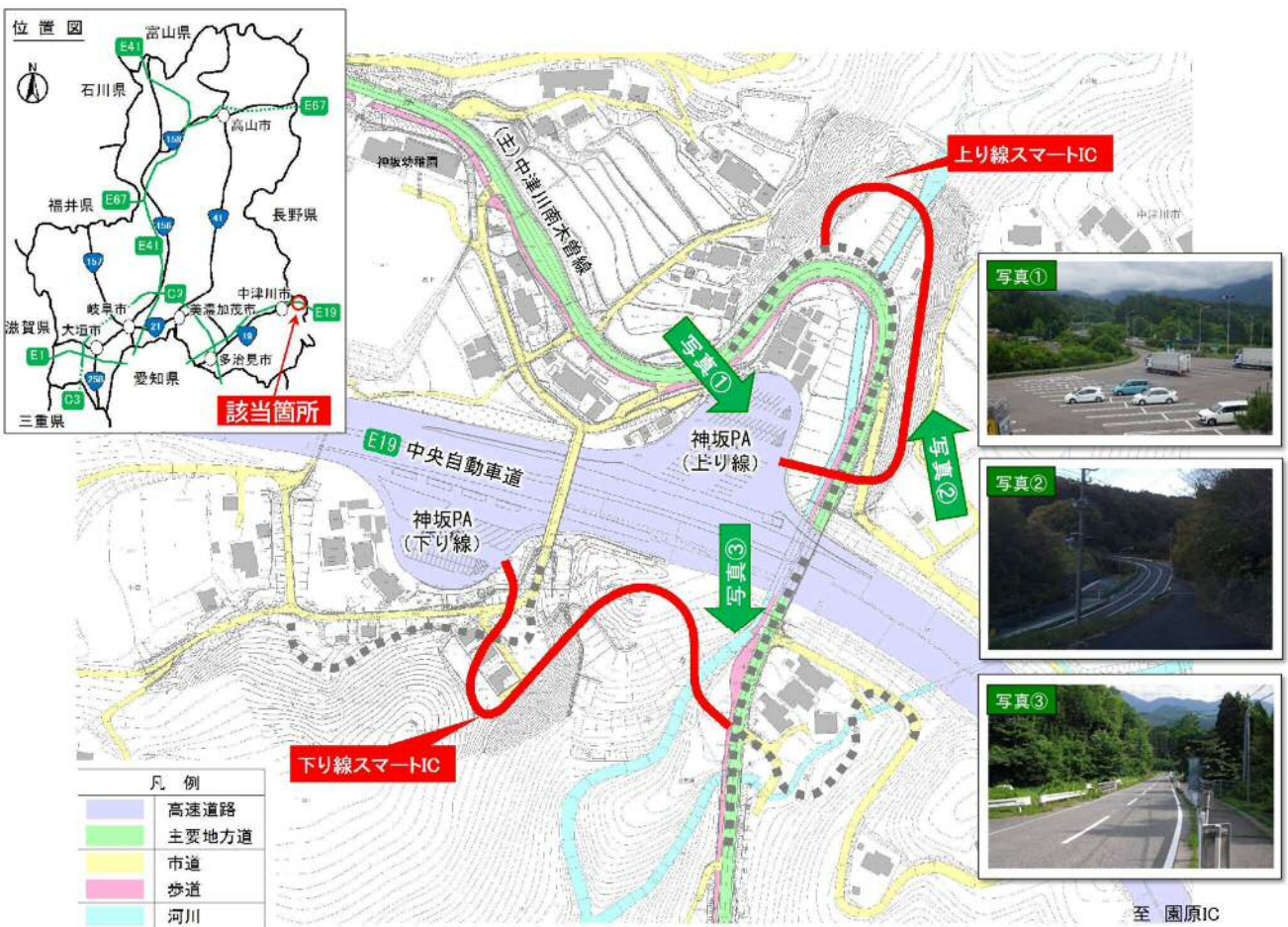
対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。